

# 戦後75年と憲法

日時：9月19日（土） 14:00~ 17:00 ZOOM

第二次世界大戦終結後、日本では「日本国憲法」が公布され、国連では世界人権宣言が採択されました。人類は、もう戦争はこりごりだと思ったのです。カトリック教会でも第二バチカン公会議（1962~65）が開かれ、人々と共に歩む教会であることを世界に誓いました。しかし依然として世界は、経済格差、排外主義、民族・人種・性による差別、環境破壊などの問題を抱え、テロや武力攻撃などの暴力も後を絶ちません。現在、世界は、新型コロナウイルスという新たな問題にも直面しています。これらの問題を乗り越えるために、私たちは戦後75年間の日本と世界の歩みをもう一度振り返り、手を取りあい直し、未来の設計図を描き直す必要があるのではないのでしょうか。

## プログラム

**発題1 松浦悟郎**（名古屋教区司教、ピース9の会呼びかけ人）

日本のカトリック教会の戦後と憲法問題

**発題2 中野晃一**（上智大学、政治学者）

日本の戦後75年、これからの日本のゆくえ

**発題3 安田菜津紀**（フォトジャーナリスト）

戦後75年目の国際社会をジャーナリストの眼から見る

パネルディスカッション 平和と憲法をめぐる

事前申し込みが必要です。

お申し込み後、オンラインシンポジウムへの参加の方法をメールにてお知らせいたします。

日本カトリック正義と平和協議会

03-5632-4444

[jccjp@cbcj.catholic.jp](mailto:jccjp@cbcj.catholic.jp)

## \* 「戦後75年と憲法」 登壇者紹介 \*

### 安田菜津紀

1987年神奈川県生まれ。NPO法人Dialogue for People（ダイアログフォーピープル/D4P）所属フォトジャーナリスト。同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『写真で伝える仕事 -世界の子どもたちと向き合って-』（日本写真企画）、他。上智大学卒。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

### 中野晃一

1970年生まれ。上智大学国際教養学部教授。東京大学文学部哲学科および英国オックスフォード大学哲学・政治コース卒業、米国プリンストン大学で博士号（政治学）を取得。専門は比較政治学、日本政治、政治思想。「立憲デモクラシーの会」「安全保障関連法に反対する学者の会」正義と平和協議会「改憲対策部会」メンバー。著書に、『私物化される国家 支配と服従の日本政治』（2018年、角川書店）、『いま、朝鮮半島は何を問いかけるのか;民衆の平和と市民の役割・責任』（共著、彩流社、2019）、『野党が政権に就くとき: 地方分権と民主主義』（2019、人文書院）など多数。

### 松浦悟郎司教

ピース9の会呼びかけ人。日本カトリック難民移住移動者委員会委員長、カトリック子どもと女性の権利擁護のためのデスク担当司教。1999年カトリック大阪教区補佐司教に叙階され、2015年よりカトリック名古屋教区司教。著書に『平和をつなぐー私、そして私たちの選び』（ドン・ボスコ社）がある。